

神奈川の水資源を有効に活用しています

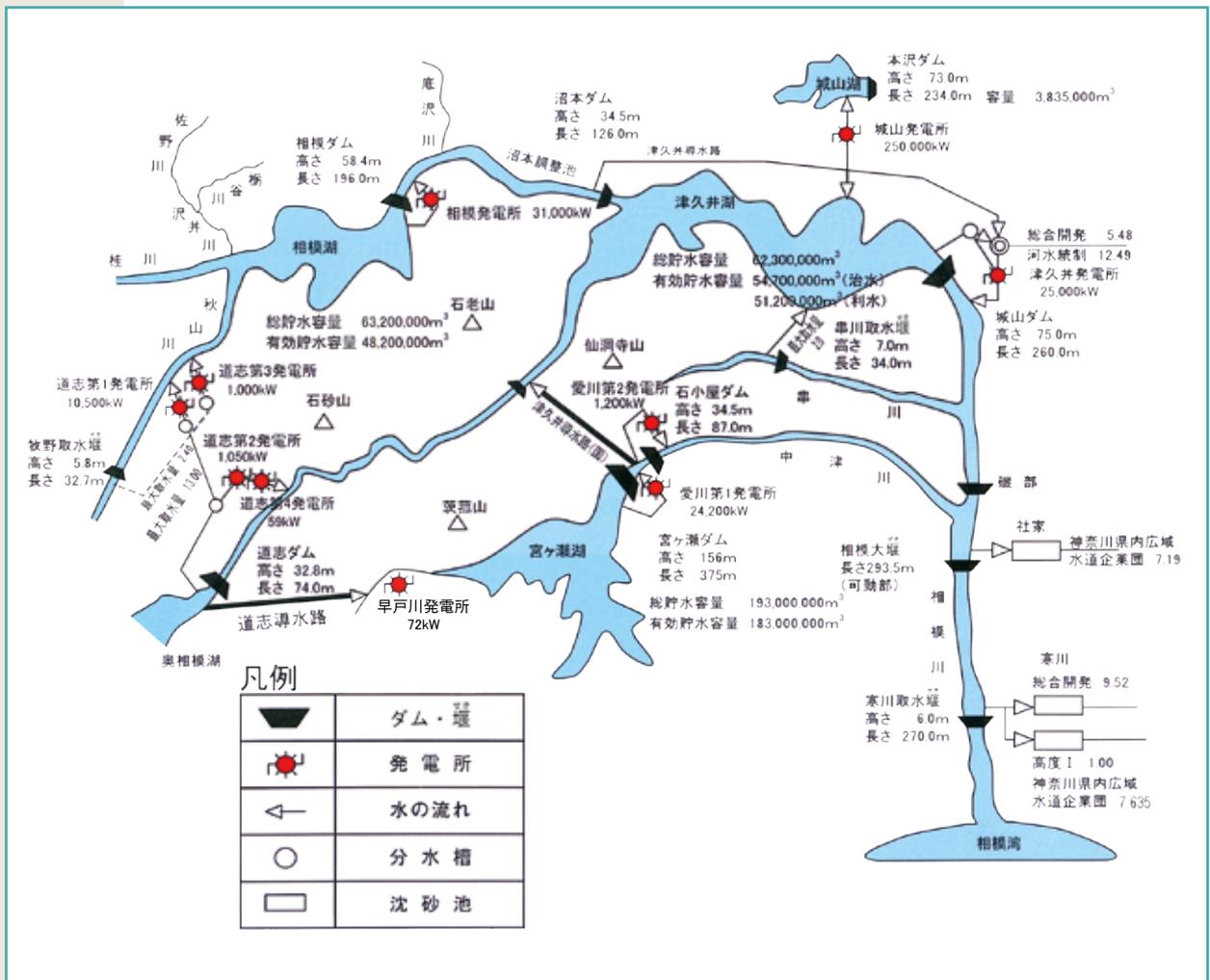
本県における水源開発は、県中央部を流れる相模川と県西部を流れる酒匂川でその多くが行われ、県内水需要の9割以上をまかっています。

相模川では、相模川河水統制事業により「相模ダム（相模湖）」が昭和22年に完成しました。続いて、相模川総合開発共同事業に

より、「寒川取水施設」が昭和39年、「城山ダム（津久井湖）」が昭和40年に完成しました。

その後、建設省（現：国土交通省）の直轄事業として、宮ヶ瀬ダム建設事業により、「宮ヶ瀬ダム（宮ヶ瀬湖）」が平成13年に完成しました。

相模川水系の主要水資源開発概要図（令和6年4月1日現在）(単位 m^3 /秒)



相模川にある相模ダム、城山ダム、宮ヶ瀬ダムの3ダムでは、水資源の有効活用を図るため、宮ヶ瀬ダムと併せて築造された2本の導水路（津久井導水路（国）・道志導水路）を使って、「相模ダム・城山ダム」と「宮ヶ瀬ダム」が連携した「総合運用」を行っています。

一方、酒匂川では、酒匂川総合開発事業により、「飯泉取水施設」が昭和48年、「三

保ダム（丹沢湖）」が昭和54年に完成しました。

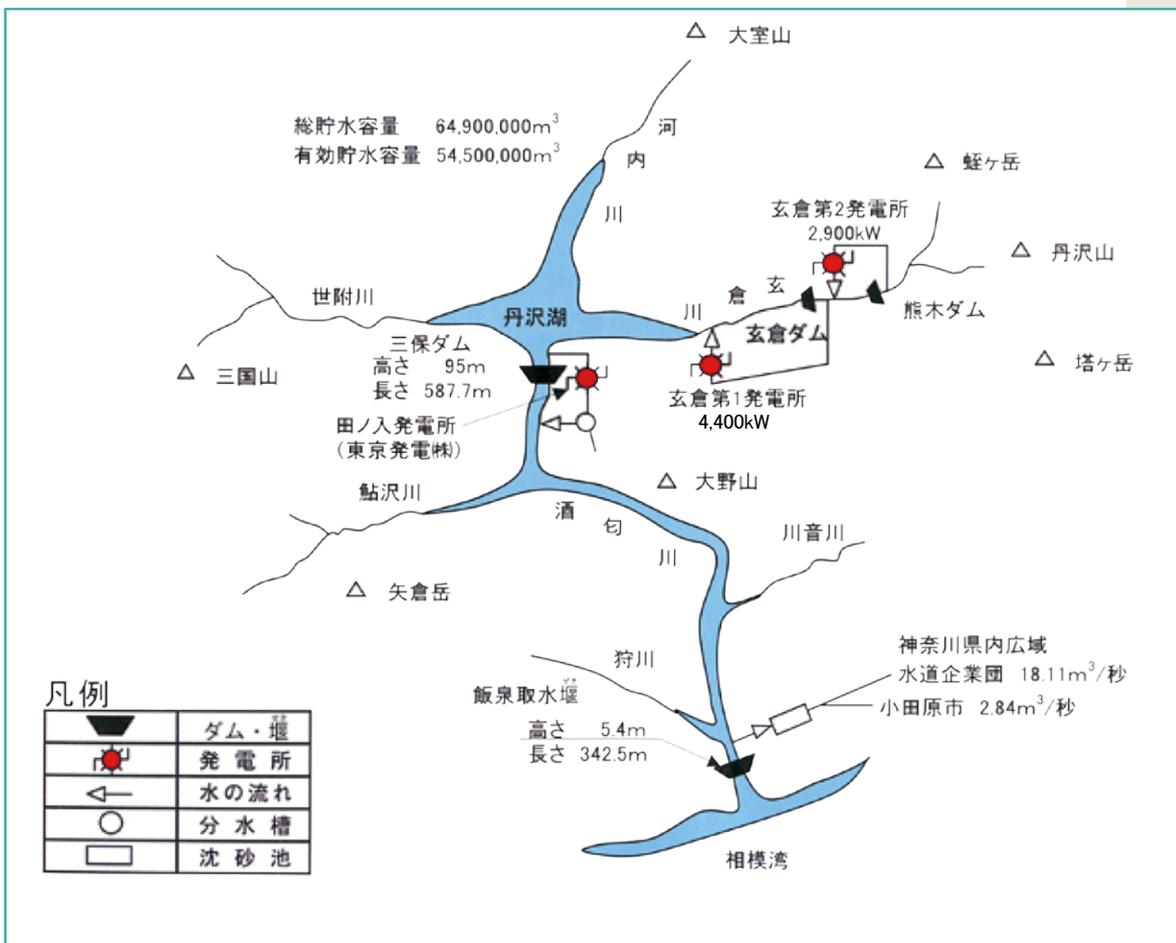
これらのダム建設で水源開発した水は、相模川では上流の「沼本取水施設」と下流の「相模取水施設（相模大堰）・寒川取水施設」で取水され、酒匂川では下流の「飯泉取水施設」で取水されています。

事業別配分水量（単位m³）

事業別 用途別	河水統制		総合開発		高度利用 I		合計	
	毎秒	日量	毎秒	日量	毎秒	日量	毎秒	日量
上水道	10.34	894,000	10.52	909,000	1.00	86,400	21.86	1,889,400
工業用水道	2.15	186,000	4.48	387,000	—	—	6.63	573,000
合計	12.49	1,080,000	15.00	1,296,000	1.00	86,400	28.49	2,462,400

本表は、毎秒、日量とも最大の数値を示しています。

酒匂川水系の主要水資源開発概要図（令和6年4月1日現在）



渇水に強い神奈川の仕組み

神奈川県は、相模川水系と酒匂川水系の2つの水源により県内水需要の約9割以上をまかっています。

相模川水系には相模ダム・城山ダム・宮ヶ瀬ダム、酒匂川水系には三保ダムがあり、4つのダムは「かながわの水がめ」として大きな役割を果たしています。

この「水がめ」を効率よく運用して、渇水に強い神奈川を実現しています。

「総合運用」

相模川水系の「水がめ」は、集水エリアや貯水容量の違いから、相模ダム・城山ダムは「水が貯まりやすいが、たくさん貯めることが出来ない」、宮ヶ瀬ダムは「水が貯まりにくい、たくさん水を貯めることができる」という特徴があります。

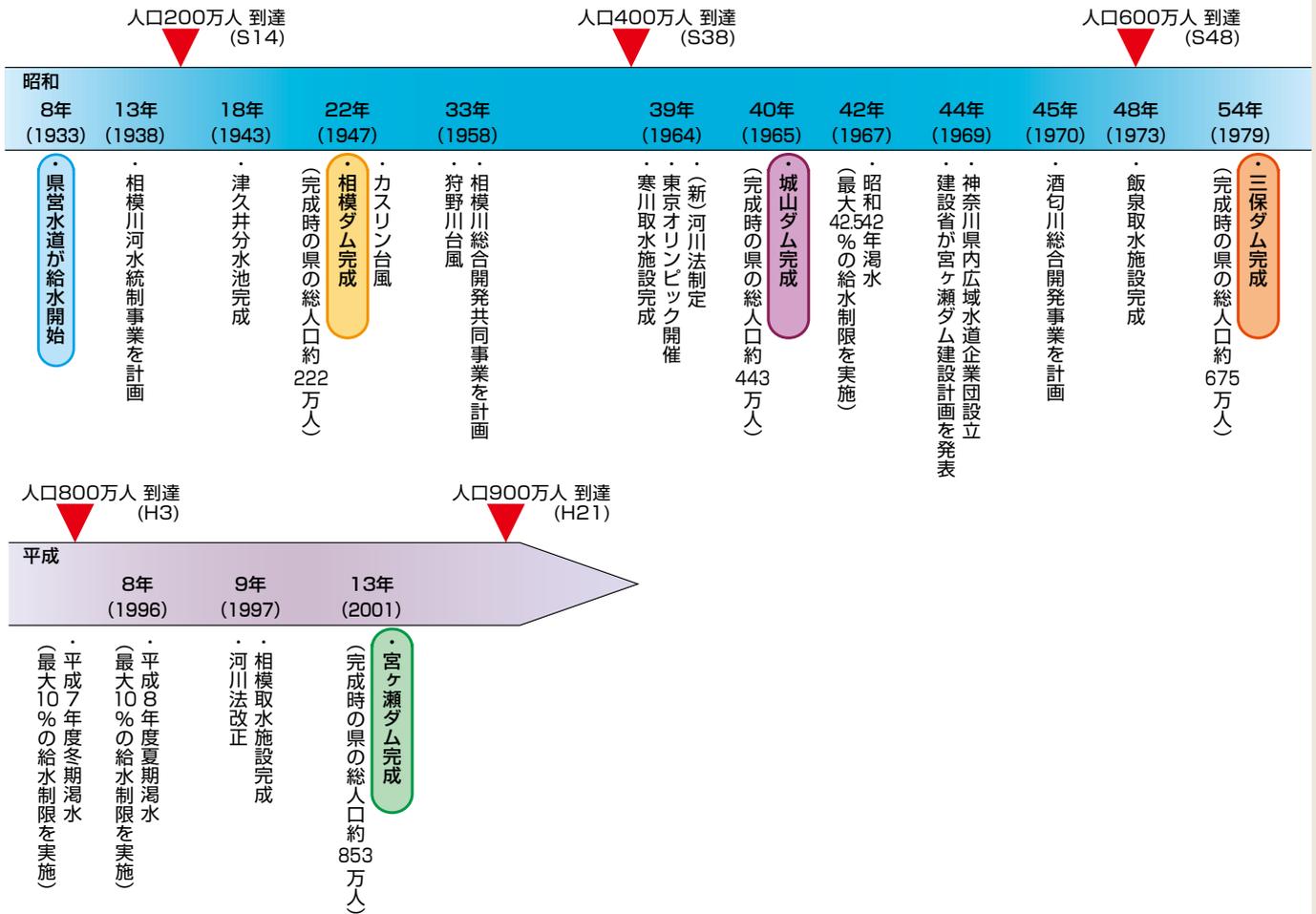
そこで、2つの地下トンネル（導水路）でつなぐことで、相模ダム・城山ダムと宮ヶ瀬ダムが連携して、効率よく水をやり取りする「総合運用」を行っています。

「2水系間の連携」

相模川水系と酒匂川水系を地下トンネルでつなぐことで、両水系の水を相互に利用する「2水系間の連携」を可能としており、これにより、水質事故や災害などの際にも、相互にバックアップを図ることができます。



水源開発の歴史

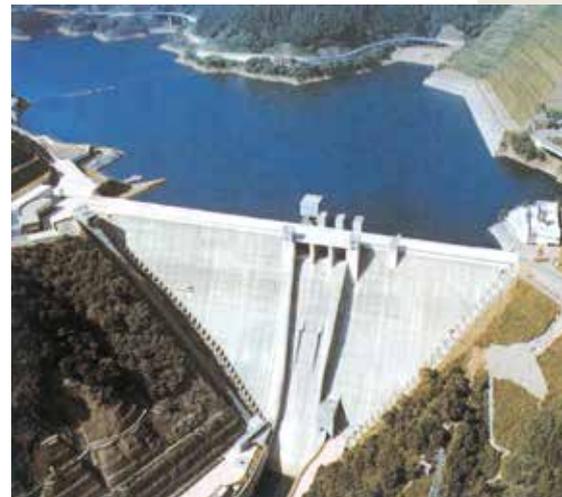
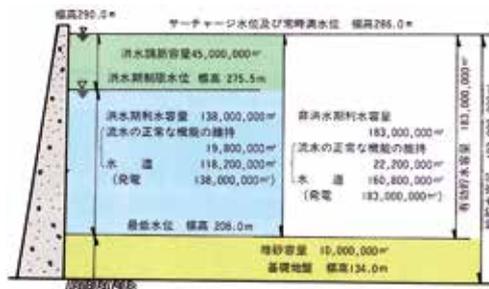


宮ヶ瀬ダム（国土交通省直轄事業）の概要

昭和 44 年 4 月に相模川が一級河川に指定公示されたのを機に、建設省（現：国土交通省）は本県の水需要と相模川の治水対策として、相模川水系中津川に多目的ダムを建設し、開発水量毎秒最大 15.05 m³（1 日最大 130 万m³）の水道用原水の確保と洪水調節を図るなどの「宮ヶ瀬ダムの建設に関する基本計画」を発表しました。宮ヶ瀬ダムの建設は建設省の直轄事業として進められ、平成 13 年に完成し、ダムの維持・運営管理については国土交通省相模川水系広域ダム管理事務所が行っています。

ダム及び貯水池の諸元と貯水池容量の配分図

- 完成年月 ● 平成 13 年 3 月
- 形式 ● 重力式コンクリートダム
- 堤高 ● 156m
- 堤頂長 ● 375m
- 総貯水容量 ● 1 億 9,300 万m³
- 有効貯水容量 ● 1 億 8,300 万m³



▲宮ヶ瀬ダム